

令和7年度 学校関係者評価実施報告書(まとめ用)

学校番号	68	学校名	静岡県立磐田西高等学校	記載者	西村 智子
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	基本的な生活習慣の確立と高い規範意識の育成により、豊かな人間性を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・『あせふこ+ (プラス)』の意味と意義を理解し、意識して生活している」生徒 90%以上 ・「気持ちの良い挨拶を自分からしている」生徒 80%以上 ・「制服 (頭髪を含む) を正しく着用している」生徒 90%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「あせふこ+ (プラス)」は卒業生にも浸透しており、本校の特色として定着している。次の段階として、生徒が自律的に判断・行動できるよう導く取組が望まれる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活の中で個々の生徒に声を掛けている。 ・「ルールやマナーの意義について考え、主体的に守ることができた」生徒 90%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校則については、生徒と教職員との対話を重ね、時代に即した見直しを進めるという取組を支持する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「8:25朝読書を開始している」生徒 90%以上 ・「チャイムと同時に授業開始の準備ができていく」生徒 90%以上 ・「次の予定と時間を意識した行動をしている」生徒 90%以上 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会・保健委員会による週末清掃点検の実施 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「他教員の授業を見学し、自らの授業改善を行った」教員 80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観等では良い授業も多く見られるが、学校全体として授業改善をさらに進める必要がある。 ・学校評価の客観性向上の観点から、委員が学校の実態をよりの確に把握できる機会（公開授業や学校行事への参画等）を充実させることが望ましい。

イ	生徒が主体的に学ぶ姿勢の形成を促し、確かな学力と幅広い教養を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICT を活用する授業を行っている」教員 80%以上 ・「情報セキュリティを意識しながら学習支援ツールや教育用クラウドサービス等を活用した」教員 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用は学習状況の把握やフィードバックに有効であり、今後も継続が望ましい。 ・情報モラルや個人情報の扱い等については引き続き留意する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒による主体的な活動や生徒同士の対話等のある授業・諸活動を行っている」教員 70%以上 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「平日1時間、休日2時間以上の自主学習ができている」生徒 40%以上 ・「オンライン学習サービス等を利用して学習している」生徒 70%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習について、単に学習時間のみを評価するのではなく、学習内容や習慣化の状況を踏まえた指標への見直しを図るといふ、次年度の取組を評価する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「測定ツールやアンケートを活用して学習習慣等の改善に対する助言を行った」教員 70%以上 ・「学校の教育活動で、生徒は『学ぶ姿勢』が身に付いている」保護者 80%以上 	B	B	
ウ	普商併設の特色を生かし、地域・社会と連携しながら、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に対応し、自己実現を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校からの進路情報や進路指導は適切である」生徒 90%以上 ・「学校の進路指導は適切であり、三者面談等は満足の内容である」保護者 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート及び保護者アンケートにおいて9割前後の高い満足度が示されていること、また進路実績も着実に積みあがっていることについて、高く評価する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「『双翼タイム』は、自己の在り方生き方を考えながら、課題を発見し、解決する力の向上に役立っている」生徒 70%以上 	B	B	

		<ul style="list-style-type: none"> ・「個人で、または部活動や委員会活動を通して、地域行事やボランティア活動、国内・海外研修等に年1回以上参加した」生徒60%以上 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館を通じた読書活動の推進が活発に行われている」生徒60%以上 ・「年間7冊以上の本を読む」生徒70%以上 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「進学補習を活用した学習や資格・検定試験に挑戦した」生徒50%以上 	B	B	
エ	<p>人権を尊重し、多様な価値観を認め、互いに支え合う姿勢を土台とした人間関係形成力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権や情報モラルに関する講座や授業を通して、人権意識が向上した」生徒80%以上 ・いじめ等に関する指導案件なし 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・相互に円滑なコミュニケーションを図ろうとする姿勢・雰囲気がある。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「先生方は私の良いところを認め、意欲や向上心が高まる言葉をかけてくれる」生徒90%以上 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活の悩みについて、先生方やスクールカウンセラーに相談できる」生徒70%以上 ・「先生は保護者からの連絡・悩み・相談したいことについて、適切に対応してくれる」保護者85%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は組織的な支援体制の強化と、生徒自身の自己解決能力の育成が重要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年行事、学習活動、課外活動等について、週1回以上のホームページの更新を行っている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに開始したInstagramでの発信は、学校の取組の可視化に資するものであり、積極的に評価する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育用クラウドサービスや学校連絡網サービスを最大限活用し、効率よく効果的な情報提供を行っている。 	A	A	

様式第5号

オ	家庭や地域等との連携を基盤とした、安心・安全で信頼・応援される学校づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練参加生徒及び教職員 70%以上 ・「災害時に対応できる」生徒 75%以上 ・「交通ルールを遵守している」生徒 90%以上 ・「健康に関する講座を通して意識が向上した」生徒 80%以上 	A	A	
		・教職員の事故及び不祥事なし。	A	A	
		・監査等において指示、指摘事項なし。	A	A	
カ	生徒及び教職員が、生き生きと学校生活を送り、学び続ける意欲を持つことのできる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校での学校生活に満足している」生徒・保護者 90%以上 ・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかにおいて積極的に活動できた」生徒 80%以上 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備、備品・消耗品が適切に利用されている。 ・月例点検・管理職点検が行われている。 	A	C	・施設設備については、設備の落下事案や全体的な老朽化が見られることから、設置者である県に対し、早急な改善を強く要望する。そのため、C評価とする。
		・「校内および校外での研修や自己研鑽に積極的に取り組んだ」教職員 90%以上	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・分掌の業務を「無くす」「減らす」「変える」の視点で見直す機会を年2回以上設ける。 ・「業務の負担感・多忙感が改善された」教職員 50% 	C	C	生徒のための進路指導や部活動指導に、教職員が熱心に取り組んでいる様子がうかがえる。部活動の休養日設定については現実的には難しいであろうが、教職員の業務負担や多忙感の軽減に向け、ガイドラインに沿った取組を着実に進めていく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「おおむね週1回は定時に退勤できた」教職員 80%以上 ・業務の繁忙期であっても、20:00前に退勤する。 	B	B	